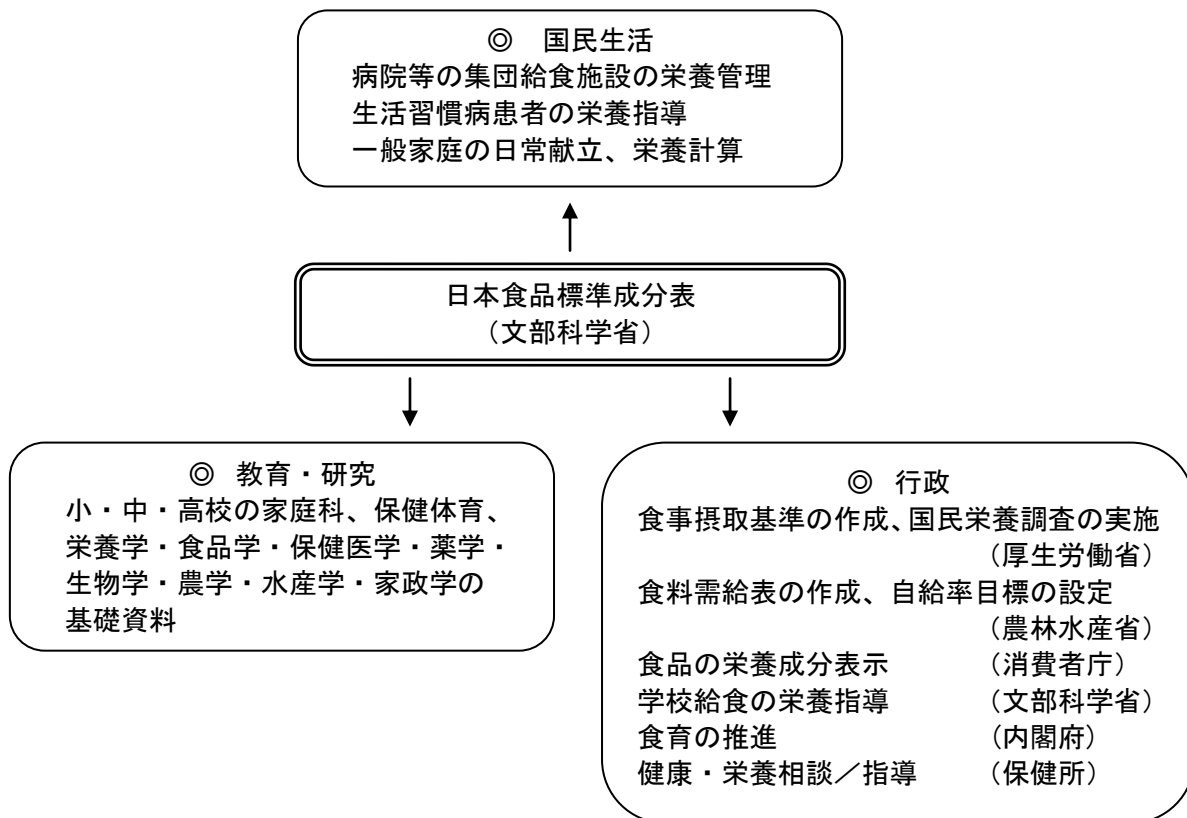


日本食品標準成分表の概要

1 日本食品標準成分表の目的及び性格

- (1) 日本食品標準成分表は、戦後の国民栄養改善の見地から、食品に含まれる栄養成分の基礎的データ集として、昭和25年に経済安定本部が取りまとめたのに始まり、昭和31年の科学技術庁の発足に伴い、資源行政の一環として資源調査会が引き継ぎ、また、省庁再編後も文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会が引き継いで、60年以上にわたって継続的に取り組んできているものである。
- (2) 日本食品標準成分表は、栄養指導や生活習慣病の予防などの観点から、学校給食や病院等の給食の場や食事療法の問題等を抱える一般家庭でも活用されているほか、教育・研究や行政においても広く活用されているものであり、こうした広い利用目的に対応するため、我が国において常用される食品の標準的な成分値を1食品1標準成分値を原則として、可食部100g当たりの数値で示している。



- (3) 日本食品標準成分表は、以下の販売実績からわかるように、食品の成分値に関する唯一の公的データ集として、幅広く利用されているところ。

「日本食品標準成分表2010」等の販売部数 (H23～H25)

- ・ 「成分表2010」(全国官報販売協同組合) : 約1万部(H22含む)
- ・ 民間出版社によるデータ転載書籍 : 約183万部